

## 一紅会 第20回 歴史研究同好会

## 学び舎の町 足利散策ツアー

## ①

## 足利

古代、足利は東山道の交通の要地

藤原系足利氏が源頼朝によって討たれると、

源氏系足利氏が鎌倉時代を通じて足利庄を支配。

室町時代は上杉氏が関東管領となり管理。

江戸時代、主に戸田氏が足利藩1万1千石の領主として

幕末を迎える。足利陣屋支配。

古代から織物業が発展、18世紀に京の西陣から絹織物が移入され、桐生とならぶ絹織物の一大産地となる。

## ②

## 足利学校

創設 鎌倉時代 建久年間 (1190-1199)

創設者 足利義兼 (足利氏の祖 足利義康の子)

時の執権 北条時政の娘を夫人として迎える

足利氏は、源義家を祖とする清和源氏の末裔

また、鎌倉幕府の祖 源頼朝とも姻戚関係

関東管領上杉憲実が実質的に学問所として再興

鎌倉の円覚寺の僧快元を招き、校長とする。

学校の蔵書として多くの書物を寄進

漢学研修の場となる。

蔵書の例 「礼記正義」 (国宝)

「文選」 (国宝) 氏

「唐書」 「春秋左伝注疎」

「論語義疎」 (重要文化財) など

(毎年1度 虫干しのニュースが放映される)

戦国時代には兵術の易占いを伝授することで

有名となり、後北条氏などの保護を受ける。

フランシスコ・ザビエルが「坂東の学校」と記述。

江戸時代も徳川将軍家から手厚い保護を受ける。  
(火事で焼失した施設の修復、孔子廟の復元など)

渡辺崋山(天保2年 1831)や  
吉田松陰(嘉永5年 1851)が来訪している。

明治時代に小学校として使用。  
大正10年 国の史跡指定。

### ③ 鑿阿寺(ばんなじ)

足利義兼の創建  
建久7年(1197) 真言宗大日派  
本尊 大日如来

約4万坪  
足利氏の居館跡 土塁や堀に今も中世の館の面影が  
残る。  
義兼の子 足利義氏が本堂を建立。  
落雷で焼失したが、その後再建。  
現在、本堂は国宝に指定。  
経堂、多宝塔、などが重要文化財

### ③ 栗田美術館

足利市の実業家 栗田英男氏が建設  
栗田英男氏(1912-1998)  
足利市の豪商の家に生まれ、戦後 衆議院議員  
資産を投じて、伊万里、鍋島の名品を  
半世紀にわたって収集。  
1968年 に開館  
伊万里焼、鍋島焼の専門美術館として有名

敷地 3万坪  
収蔵品 1万点以上

歴史小説の執筆を続ける作家

渡辺 房男さん

# 元氣 甲州人



わたなべ・ふさおさん 甲府市出身。甲府一高—東京大文学部仏文科卒。NHKに在職中の1999年、「桜田門外十萬坪」で第23回歴史文学賞を受賞。2001年には「ゲルマン紙幣一億円」で第15回中村星湖文学賞。71歳。東京都世田谷区在住。

歴史経済小説というジャンルで活躍を続ける。膨大な史料や文献を丹念に調べ上げ、時代考証を重ねる。それを土台に、社会における人間の営みを描くことにこだわる。

甲府一高生の頃に時折、

列車で4時間かけて上京した。新宿の書店の2階で洋書がずらりと並ぶさまに息

をのんだ。「こんなにたくさん世界の本が並んでいる。全部読破できる英語力を早く身に付けたい」。辞書を引きながら読書を熱を上げた。

同じ頃、図書館で出会ったのが、スタンダールやロマン・ロランらのフランス文学。人間心理の鋭い描写に魅せられ、「これが一生勉強できたら」と東京大の仏文科を志した。

卒業後はNHKに入局。ディレクター、プロデューサーとして教育番組の制作に携わった。放送局を選んだのは「学問の世界にとどまらず、生身の社会を見つめたかった」から

## 人間のドラマ 実証的に

だ。「人間の思いや悲しみ、喜びを感じ、それを基にいろんな番組を作りたい」と思った。

手掛けた中でも環境教育番組は先

駆けで、試行錯誤の連続だった。「分

かりやすく伝える」とことと「興味を

引き、自然と環境の大切さに気付い

てもらおう」ことに心を砕いた。「ほ

んのひとかけらかもしれないが、将

来を担う子どもたちの礎になると思

うと、楽しかった」

ただ、50歳を前に「1人だけで

きることには挑戦したい」との思いが

沸いてきた。放送の仕事はカメラに

来を担う子どもたちの礎になると思

うと、楽しかった」

ただ、50歳を前に「1人だけで

きることには挑戦したい」との思いが

沸いてきた。放送の仕事はカメラに

来を担う子どもたちの礎になると思

うと、楽しかった」

ただ、50歳を前に「1人だけで

きることには挑戦したい」との思いが

沸いてきた。放送の仕事はカメラに

来を担う子どもたちの礎になると思

うと、楽しかった」

2カ月かけて短編を書いた。

何作品か書くと「プロに読んでも

らいたい」という気持ちが強まる。

「歴史文学賞」に狙いを定めて何度

か挑戦し、「桜田門外十萬坪」で受

賞した。明治維新直後の土地周旋を

めぐる元与力の生き様を描いた作

品。「歴史的な事実の裏に、どんな

人間のドラマがあったのかを想像す

るのが楽しかった」

「実証的なことを書かなければ読

者に納得してもらえない」と、事実

を丹念に調べることにこだわった。

「生身の人間が一体何を見て何を食

べて、どんな音を聞いたのが。細部

を突き詰める」という姿勢は、これ

まで出版された14冊に通底する。経

済活動が絡むのも作品の特徴だ。「経

済は社会の人間の営みの基本。歴史

物にある『粹』だけを描

くのでは、本当の社会は

描けない」

江戸から大正までさま

ざまな時代を書いてきたが、今、頭

の中にあるのは「昭和」だという。

「あの悲劇的な戦争がなぜ起こった

のか。昭和という時代について考え

てみたい」と、戦争前後の日本社会

に生きた人間のドラマを構想する。

故郷での高校時代、人間描写に魅せ

られた文学の世界での挑戦が続く。

〈小沢甲吾〉

渡辺房雄先生を囲んで 一紅会歴史研究同好会

第20回「学び舎のまち 足利散策ツアー」参加者名簿 (敬称略)

催行日 平成28(2016)年5月8日(日)

NO	卒業年次	お名前	NO	卒業年次	お名前
1	S38年卒	渡辺 房男(講師)	31	S38年卒	矢崎 茂夫
2	S30年卒	神田 四郎	32		矢崎 敏子
3		神田 信子	33		梅澤 梅子
4		小坂 敏子	34		新海 行子
5		佐野 知子	35		鈴木 紀子
6		塩瀬 昭子	36	S40年卒	飯野 文吾
7		近藤 文子	37		斉藤 勝人
8		轟 佐知子	38		鈴木 勝典
9		中込 勝子	39		雨宮 喬子
10		清水 容子	40		宇野由美子
11		野田 純子	41		深澤 保子
12		大久保久子	42	S41年卒	山本 秀彦
13		川那辺スズカ	43	S44年卒	峯川 文江
14		井上 若子	44	S45年卒	百瀬 良彦
15	S32年卒	雨宮 武	45	S46年卒	西野 公子
16		若尾 和子	46		山下 恵子
17	S33年卒	樋川 紘一	47	S47年卒	佐藤みどり
18		飯田富美子	48		山田 陽子
19		斉藤由美子	49	S52年卒	佐藤 守
20	S35年卒	志村 昌也	50		伊藤由佳美
21		作道 恒	51		塚田 薫
22	S36年卒	塚越 洋	52		中山 初美
23		雪江 武雄	53		吉川 文代
24		谷口百合子	54		飯野 正人
25	S38年	雨宮 武士	55	S56年卒	鷹野 由香
26		一瀬 明	56	S57年卒	石井 孝明
27		市橋金之助	57	S39年卒	齋藤美都子
28		長沼 真	現地参加		
29		祢津 信夫	1	S35年卒	小笠原紘子
30		山田 常夫	2	S40年卒	河西 良幸

新宿～参加者：59名

現地参加者：2名

欠席 2名(近藤, 雨宮)